

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|-----------------------|-----------------------|--------|----|
| ○事業所名 | こばんはうすさくら八千代台教室 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年8月1日 ~ 2025年9月8日 | | |
| ○保護者評価有効回答数 (対象者数) | 62 | (回答者数) | 55 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025年8月1日 ~ 2025年9月8日 | | |
| ○従業者評価有効回答数 (対象者数) | 13 | (回答者数) | 13 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年9月15日 | | |

○分析結果

| | 事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 児童が楽しく通える教室の雰囲気 | ①療育方針の徹底 • 「怒らない・叱らない・褒めて伸ばす」を朝礼等で繰り返し職員へ伝達 ②楽しいプログラムの企画・実践 • ルーティンプログラム、集団プログラムの定期的な更新 • 子供の参加状況に応じた内容の組替、修正 ③子供のやる気を引き出す取り組み • 昼食：ピカピカ賞を提供 • 褒める：ヒーロー賞を提供 | ①職員の療育技量の向上 • こばん本部との連携強化、各種研修を実施（こばんカレッジ等） • 職員が療育に集中できる環境の整備（IT化、システム化、集中化） • 職員の自発アイデアの活用（まずやってみる、やりながら改善を図る） |
| 2 | 保護者との密な情報交換 | ①連絡帳を通じたきめ細かな対応 • 教室内の様子を写真とコメントでわかりやすく伝達 • 保護者コメントには漏れなく丁寧に対応 ②連絡しやすい多様なチャネルを用意 • HUG、公式LINE、メール、電話、送迎時などで対応 ③職員間情報共有の仕組化 • グループLINEで漏れなく共有 | ①保護者の連絡先を複数把握 • 父母いずれかしか登録が無いケースが存在 • 最低2つ以上の連絡先情報を把握、管理 • 何かあればすぐに連絡できる体制を整備 |
| 3 | 子どもの適正に応じた適切な支援 | ①アセスメントの高度化 • AIアセスメントツール導入 • 児童毎に5領域毎の発達状況を可視化 ②個別支援計画に基づく支援 • アセスメント結果に基づいた個別支援計画を策定 • 個別支援計画に沿った振り返りを毎回実施 ③集団療育における個別アプローチの実施 • 児発、放ディイ毎に（平日）毎日定例会を実施 • 個別児童毎の課題に対するアプローチ方法を討議 | ①こばんの理念（下記）の共有 • 「すべての答えはお子様の中にはあります」 • 「可能性をみつけて差し上げる集団になろう」 • 「集団療育における個別の支援を目指す」 ②こばんの理念（上記）の浸透、推進 • 日々の定例会を活用、PDCAサイクルを早回し |

| | 事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 専門的支援の対象児童・内容の拡充が求められている | 専門的支援計画作成の負荷が高い 専門的支援実施時間の確保が難しい | ①専門的支援計画作成ツール活用 • 導入済みツールを活用、専門的支援計画作成負荷を低減 ②集団プログラムの見直し • 専門的支援にもつながる集団プログラムを企画 • 30分以上の専門的支援を小集団で実施 • こぼ（言語・コミュニケーション）から着手 |
| 2 | 子育ての不安や悩みを共有できる場が限られている | 通所児童に対する療育の質向上に注力 保護者へのペアトレ検討も、実施難度高く見送り 連絡帳等の情報交換だけでは充足できないケースあり | ①保護者参観の開催（3ヵ月に1回程度） • 保護者に支援場面の観察や参加等の機会を提供 • 特性を踏まえた関わり方等に関して相談援助を実施 ②保護者個別相談会の開催（毎月） • 全保護者へ実施日程をご案内 • 希望保護者と個別相談会を開催 |
| 3 | オープンな議論が生まれにくい職場環境 | 「療育に答えは無い」ため、異なる意見が職員毎に発生 自信が無く発言をためらうor職員間での衝突が発生 職場の風土改善だけでは限界 | ①ハウスルールの整備 • ハウスルールを正とした、共通の判断軸を設定 • ハウスルールを主語とした、オープンな議論を醸成 • ハウスルール自体の見直しも、適宜実施 |